

代々木

春号

令和七年

平成二十七年五月二十日第三種郵便物認可 令和七年四月一日発行(四回)一四・七・十の「日発行」 第百十七巻 号通巻五十四号

終戦八十年

靖國神社大塚宮司に聴く

明治神宮と私

佐多保彦

大使が見た日本と明治神宮
ブラジル連邦共和国

〔明治の気概〕 柴五郎

岡田幹彦

明治神宮

と私

●ブルゴーニュ名誉市民

佐多保彦

ブルゴーニュワイン奉納二十年を迎えて

なぜ、明治神宮にはワイン樽があるのですか——南参道を歩いているとよく聞かれる質問です。ワイン樽が設置されたのは平成十八年、それから毎年ワインが奉獻され、今年ちょうど二十年目となります。ワインが大好きだった明治天皇への崇敬の念はもとより、日仏友好と世界の平和を祈って奉獻を続けている、フランス・ブルゴーニュ名誉市民の佐多保彦氏にお話を伺いました。



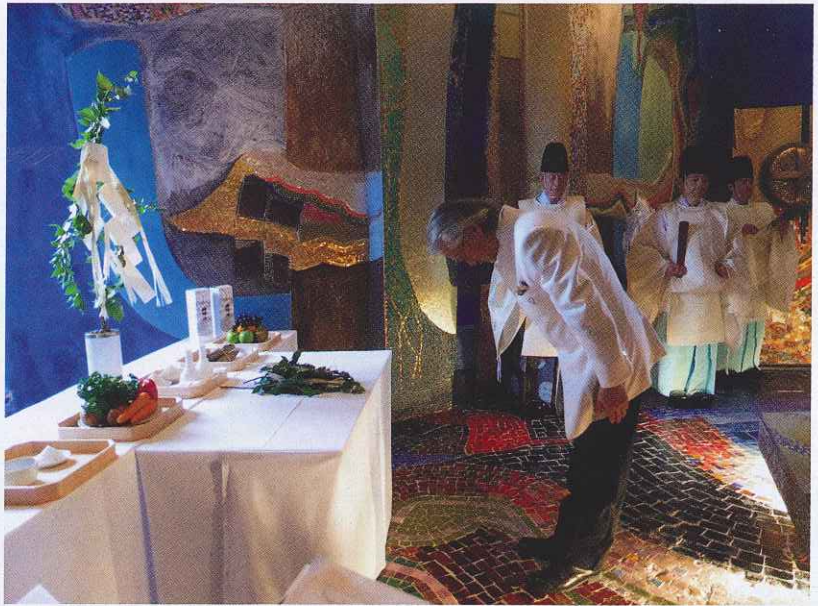
平成18年、ワイン樽の竣工清祓式後の記念写真。「バン・ブルギニョン (Ban bourguignon)」(＝ブルゴーニュ地方での三三七拍子のようなもので、楽しい時に手振りをつけながら歌うもの)で笑顔に。中央白衣が外山宮司(当時)、向かって左隣が佐多氏

「平和の祈りの会」の旅 神社関係者と同行して

私の仕事は、欧米の優れた医療器材を日本に紹介すると、昭和三十年に父が創業した健康関連会社の経営です。今年六月九日に創業満七十年を迎えます。父は陸軍軍医として約七年半お国に奉公しましたが、外地での勤務も長く、最前線のインド洋のニコバル諸島カーニコバルで終戦を迎え、九死に一生を得て帰還しました。

父が戦後創業期で苦勞していた頃、昭和三十三年春から三十六年春にかけて渋谷区原宿の竹下町に暮らし、神宮前小学校に四年生から六年生まで通いました。遊び場というと家の近くの明治神宮や東郷神社が一番思い出にあります。

特に明治神宮は広大な森で、いたずら好きな子供仲間では小屋を作ったり、ロビンフッド気取りで遊び呆けたものです。守衛さんに笛を吹かれ怒られたこともありましたが、実にのんびりした時代でした。明治神宮は私の心のふるさとです。



フランス・シャトー ド シャイイ ホテルの「ドーム・ド・コスモス」で明治神宮神職がワイン醸造葡萄豊稔祈願祭を行った。拝礼する佐多氏（平成27年）

先生を訪ねました。

初対面にも関わらず和やかに私の話をお聞き下さり、「ちょうど九月にイタリアのバーリで『平和の祈りの会』が開催されるので渡欧します。帰途ブルゴーニュに寄れるかもしれません。至急調べてお返事しましょう」とのありがたいお話になりました。

約束通りお電話があり、「佐多さん、ブルゴーニュに訪問させていただきます。お宿はおまかせして良いですか」とうれしいお話、私は失礼を顧みず、「ありがとうございます。できましたら私もそのローマ法皇の主催される会への旅行に一緒にさせていただきますでしようか」と申し上げたところ二つ返事で「良いですよ」と言われ、たいへうれしく思いました。

私はこの「平和の祈りの会」がヨハネス・パウロⅡ世（ローマ法皇）のご意志で始まり、第一回が聖フランチェスコで有名なASSISI（アシジ）一九八六年に百六十

一九九〇（平成二年六月に、フランス・ブルゴーニュの古い館（シャトー）をホテルとして再建し、併せてゴルフ場も新設開場しました。その中に祈りの場（ドーム・ド・コスモス）をその年の十月に開設したいと、当時神社本庁総長で鶴岡八幡宮宮司であられた白井永二

名近い各種宗教のリーダーを集めて開催されたことを本で読み知っていたので興味を覚えていました。

イタリアのバーリの町に全世界からイスラム教を除くさまざまな宗教者が集い、それぞれ平和祈願の儀式をされていたが、日本の十数名の神職が唱えられた大祓の祝詞の迫力には心底感動しました。

この旅行で一緒に外山勝志先生（当時は明治神宮権宮司）と親しくお話

をする機会を得て、明治神宮との今日までの深いご縁を頂戴することとなりました。

ワイン樽とワイン奉献のはじまりと今も続く苦労

明治神宮の参道に日本酒のこもかぶりがたくさん並んでいます。ある時、外山宮司（当時）に、あそこに並んでいるこもかぶりはどういう風習でしょう

かとお尋ねしたところ、毎年年末に日本酒メーカーに新しい物と取りかえてもらっていますが、もちろん中はカラで、こもかぶり一つについて三本の一升瓶を奉納していただくことになっていますとのこと。

そこでふと、ブルゴーニュのワインメーカーに話をして樽を入手し、一社毎年三本奉納するという案はいかがでしょうと申し上げたところ、それはおもしろい、ぜひにとのお話であったので早速動いてみました。

果たして何社集まるか判りませんが、弊シャトーホテルのスタッフが努力し、私もご縁のあるブルゴーニュのワインメーカーのオーナー等に話をして、最初十九個の樽が並ぶことになりました。その後しばらくは参加してくれるワインメーカーが見つからず苦慮しましたが、現在私が日本支部の会長を務めるブルゴーニュワインの騎士団の総裁（当時）で友人のヴァンサン・バルビエ氏が来日した折に明治神宮を案内し、この樽をお見せしたところいたく感動し、ブルゴーニュに帰ったら自分から働きかけて樽を増やす努力をしますと

ワイン奉献奉告式の後、ワイン樽の前で（令和6年）





外山宮司(当時)から感謝状を授与された(平成18年)

言ってくださったのです。結果、功を奏し何と計六十個の樽が並ぶことになりました。爾来現在まで六十のワイン樽が日本酒のこもかぶりと参道をささいで並んでいます。

日仏友好と世界平和を祈る 趣旨の理解と周知の必要性

長年にわたり中心的な存在でこの奉納を支援してくださっているお方は、

有名なロマネ・コンティを造っているD. R. C.社のオーナー、オベール・ド・ヴィレーヌさんです。彼は最初から意図をよく理解してくださり、私がワインの販売に全くタッチしていないこともご存じで、日仏友好、世界平和のためにと、D. R. C.社としては高価で限られた本数しかできないので、毎年一本という約束でやりましょうというお話でした。実際にはエシエゾー、グラン・エシエゾー、ロマネ・サン・ヴィヴァン他、ロマネ・コンティは含まれないものの、毎年二本お届けくださっています。本当にありがたいことです。

明治神宮には毎年約百八十本近いワインを奉納しています。これは決して簡単なことではなく、弊シャトー社員が各ドメーヌと連絡を取り、必要に応じて訪問して集める努力を継続していること、ブルゴーニュから日本までの搬送、通関、国内輸送等、私共で全責任を負ってお手伝いしているという背景があります。

一方で、数年奉納に参加したけれども日本での販売が増えないので辞退するというドメーヌもあります。その穴

埋めは必ず見つかるのでありがたいのですが、商売と結びつけて三本のワインをいただけないことに悔しい思いをすると共に、この行為の趣旨をもっと深く理解いただけぬものか、努力をせねばという思いにも駆られます。

明治神宮へのワイン奉納は毎年十二月に行っており、今年で二十回を迎えます。奉納されたワインは毎年十一月三日の明治神宮例祭に駐日各国大使・公使夫妻が招かれ、その直会^{なみらい}でふるまわれていると聞きます。外山先生とご縁で始まったこのワイン奉納が今後も日仏友好の促進と世界平和の実現に貢献できることを祈念しております。

さた・やすひこ

昭和二十二年、兵庫県芦屋市生まれ。駒場東邦中・高等学校卒業、慶應義塾大学経済学部卒業後、同四十五年医療器械・器材の輸入・販売および製造を行う東京機械貿易株式会社(現株式会社東機貿)に入社。現在、株式会社TKB・株式会社東機貿代表取締役会長兼社長。平成二十年六月十六日シャトー・ド・シャイイ・ホテル&ゴルフ開業。またブルゴーニュワインの騎士団日本支部会長を務めている。令和二年十二月レジオンドヌール勲章シュヴァリエ受賞。